



森林と人を 生かす知恵 161

シカが増えると森林はどうなる？

～岐阜県の広域モニタリング調査からみえてきたこと～

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 中森さつき

近年、ニホンジカ（シカ）の増加により、森林の下草や低木が食べられてしまう問題が全国で広がっています。岐阜県内でも同様の状況がみられ、森林の健全な成長への影響が懸念されています。そこで岐阜県では、シカの個体数と森林の状態との関係を明らかにするため、広域的な調査を実施してきました。

本調査では、県内の落葉広葉樹林約360地点において、下層植生の状態を調べています。調査は2014年、2016年、2019年、2024年の4回にわたり実施し、「森林下層植生衰退度 (Shrub-layer Decline Rank: SDR)」という指標を用いて、森林の衰退状況を6段階で評価しました。

調査結果をGIS (Geographic Information System、地理情報システム) を用いて空間解析を行い地図上に示すと、森林の衰退は県内で一様では

なく、地域ごとに違いがあることが分かりました(図1)。特に中部や西部では衰退が進んでいる地域が見られる一方、北部では比較的影響が小さい傾向が確認されました。さらに分析を進めると、シカの生息密度が高い地域ほど、森林の衰退が進む傾向があることが明らかになりました。つまり、シカの数が増えるほど、下草が食べられ、森林の状態が悪化していく関係が見えてきたのです。

また、過去と現在の結果を比較すると、同じくらいのシカの数でも、最近の方が被害が起こりやすくなっている可能性も示されました。これは、長い間シカに食べられ続けたことで、森林の下草が弱くなっているためと考えられます。

一方で、近年は変化も見られています。岐阜県では年間約2万頭のシカを捕獲しており、その結果、一部の地域では森林の衰退の進行が抑えられる傾

向も確認されました。ただし、森林が元の状態に戻るには時間がかかるため、引き続き注意深く見ていく必要があります。

今回の調査では、シカの個体数推定や将来予測とあわせて解析を行い、森林の衰退とシカの関係を広域的に捉えることができました。解析を進める中で、シカの密度だけでなく、長期間にわたるシカの採食の影響が、森林の状態に大きく関わっている可能性も見えてきました。

一方、捕獲の効果とみられる変化も確認されており、適切な管理によって森林の状態を改善できる可能性も示されています。ただし、衰退した植生の回復には時間がかかるため、引き続き状況を見ていく必要があります。

今回得られた結果が、今後のシカの個体数管理や森林づくりの検討に活かされ、地域の森林がより良い状態で維

持されていくことを期待しています。

この調査は岐阜県環境エネルギー生活部を中心に実施されています。調査の実施にあたっては、関係機関や研究機関の協力のもと、多くの方々の支えにより進められてきました。

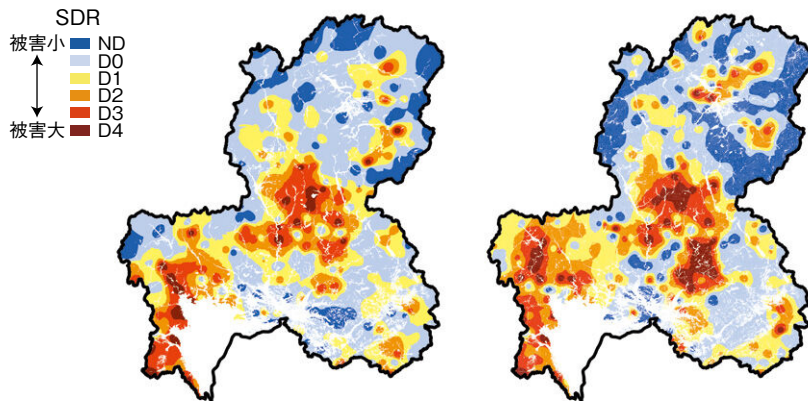


図1 落葉広葉樹林におけるSDR分布図(左:2014年、右:2024年)

●詳しい内容を知りたい方は TEL (0575) 35-2525 県立森林文化アカデミー まで